

令和 7 年 6 月記者会見

質疑応答の概要

①「住みよさランキング 2025」宮城県第 1 位

Q.

今回、「住みよさランキング」第 1 位に返り咲いたということで、昨年第 2 位から今年第 1 位に返り咲けた要因などが分かれば教えてください。

A.市長

株式会社東洋経済新報社の「住みよさランキング」におきましては、偏差値によって自治体のランキングを決定しており、偏差値はさまざまなデータを用いて算出されます。本市は「住みよさランキング」を含むさまざまな民間調査による自治体ランキングで第 1 位になっておりますが、複数の要因があるかと思います。一つ一つの施策と日々の努力の積み重ねが、この結果につながったものと認識しております。

Q.

第 1 位に返り咲いたことに対する市長の所感と今後に向けての思いをお聞かせください。

A.市長

この度、第 1 位に返り咲いたということで大変うれしく思っております。本市が目指しているのは、「住みたくなるまち日本一」でございますので、日本一を目指してさらに頑張ってまいります。

Q.

今回宮城県内版で第 1 位、東北版で第 4 位だったかと思いますが、東北で富谷市より上位だった 3 つの自治体名とそれぞれの順位を教えてください。また「安心度」「利便度」「快適度」「富裕度」のうち、富谷市はどの部分が高く評価されてこの結果になったのか要因を教えてください。

A.企画政策課長

本市は宮城県内版で第 1 位となっております。県内版の他に、北海道・東北版が発表されておりますが、そちらでは北海道・東北の第 2 位となっております。また株式会社東洋経済新報社のホームページ上では、全国編トップ 200 が発表されておりますが、それを読み取っていくと、本市は北海道・東北内で第 4 位でございます。本市では、「安心度」が 4 つの視点の中でも、大変高い評価を得ておりましたので、こういったところがこの順位に結び付いたものだと推察しております。

Q.

「安心度」での富谷市の全国順位を教えてください。

A.企画政策課長

本市は「安心度」で第 158 位となっております。

Q.

全国編トップ 200 で、富谷市は東北第 4 位でしたが、上位 3 つの自治体名と全国順位を教えてください。

A.企画政策課長

上位 3 つは岩手県や秋田県の自治体です。岩手県釜石市、秋田県大仙市、岩手県盛岡市でございます。釜石市は第 45 位、大仙市は第 74 位、盛岡市は第 76 位です。

Q.

株式会社東洋経済新報社の「住みよさランキング」に関連して、大東建託株式会社の「街の住みこちランキング」について伺います。「街の住みこちランキング」では、6 年連続宮城県内第 1 位、5 年連続東北第 1 位となっておりますが、この結果に対する市長の受け止めをお聞かせください。

A.市長

「街の住みこちランキング」ですが、調査が始まった最初の年から、宮城県内版の第 1 位ということですのでずっとキープしております。東北版はその翌年から加わりましたが、こちらにつきましても、初年度から第 1 位を継続しております。本市は東北 77 市の中で唯一鉄道駅や鉄軌道がない上に、高速道路も仙台北部道路のインターチェンジ 1 つのみであり、さらに総合病院もないなど都市機能に関しては決して恵まれた自治体ではありません。こういった状況の中、第 1 位という結果をいただいていることを大変うれしく感じております。私はこの結果につながっている要因は、市民力の高さだと思っております。市民の皆さまにはさまざまな取組を行っていただいております。市役所屋上ではちみつプロジェクトや富谷茶復活プロジェクト、フードバンク AGAIN の子ども食堂、起業塾である富谷塾など、市民の皆さま 1 人 1 人が、さまざまな活動に主体的に取り組む市民力の高さがこの結果につながっているものと認識しております。

Q.

大東建託株式会社の「街の住みこちランキング」ですが、細かく見ていきますと、「生活利便性」が第 2 位、親しみやすさは第 1 位、防災も第 1 位となっておりますが、この辺りの評価についてはどのように捉えていますか。

A.市長

親しみやすさにつきまして、本市は他自治体と合併せず単独で村から町、そして市制施行した自治体ですので、常に市民の皆さまと近い距離にあるということが要因としてあるものだと考えております。安全性に関しては、本市は海に面しておらず、地盤が固い高台に団地を造成しているので、いわゆる災害に強い環境ということが、背景にあるのではないかと推察しているところでございます。

Q.

今後もっと住みやすい街にしていくためには、こういった点が必要だとお考えでしょうか。

A.市長

住民の皆さまから常にお寄せいただいているのは、泉中央からの軸となる基幹公共交通を整備してほしいというものと、救急・急性期を担う総合病院があればいいというものですので、そういったところが整備されれば、さらに良い自治体ということで評価されるのではないかと考えております。

その他の案件

Q.

総合病院の誘致についてお尋ねします。6月20日までに公募が行われ、2つの事業者から申請がありましたが、一次審査や質問など、現在の状況を教えてください。

A.市長

5月28日の記者会見で公募要項についてご説明させていただいてから、広く報道などでお伝えいただいたおかげで、6月20日に締め切った段階で2つの事業者から申請をいただくことができました。これもひとえに報道関係者の皆さまに広くお伝えをいただいたおかげだと思っております。改めて感謝を申し上げたいと思います。そして、今回、本市が目指している地域医療の新しいモデル、プラットフォームの構築ということで、それに向けて新病院として手を挙げていただいた2つの事業者には、心から感謝を申し上げたいと思います。なお、6月20日に、応募資格について確認をして、受理をさせていただいたところでございます。現在は、6月27日までを質問期間とさせていただいており、2つの事業者から、さまざまな質問を受け付ける期間になっております。現段階で、具体的に質問はまだ届いておりませんが、現在事業者が、質問事項を取りまとめられている段階だと思っております。今後については6月27日までにいただいた質問事項について、また1週間かけて、7月4日までの間にいただいた質問事項に本市からお答えをするスケジュールになっております。なお、お答えしたことを踏まえて、正式に7月22日に応募申請をいただき、7月25日、具体的に、2つの事業者からどのくらいの病床で、こういった診療科目で、こういった医療体制を整備していただけるのかということで、いわゆるプロポーザルを実施する予定になっております。

Q.

参加申請書を受け取る段階のチェックが一次審査ですか。

A.市長

その通りです。参加資格を有するかどうかということを6月20日に確認の上、受理いたしました。

Q.

2つの事業者からの質問はすでに富谷市へ提出されていますか。

A.市長

まだ本市へ提出は、いただいていないところです。

Q.

最終的な決定はまだ先の話だと思いますが、事業者が複数参加されたということで、事業者を選ぶ上でのポイントを教えてください。

A.市長

まずは、富谷・黒川地域の救急・急性期の患者の受け入れ体制です。また、本市は精神医療が脆弱な地域ですので、精神科などがあると評点の加点対象になるということは公表させていただいているところです。なお、本市は子どもの多い地域で、市民の皆さまから小児医療を充実させてほしいとの声もいただいておりますので、私としては小児医療を充実してほしいとの思いを持っているところです。その他には、今回、本市を含む富谷・黒川地域4市町村が目指す、新病院と既存の公立黒川病院の医療連携や、黒川4市町村の行政はもとより、医師会や既存の医療機関との連携する「医療連携支援等プラットフォーム」の構築を目指していることをご報告させていただいておりますので、よりその点に、効果的な医療機関であるかどうかということもポイントです。最終的には8月19日、専門的な知識を有する方々による選考委員会で候補者を選考し、翌日の20日に決定し正式な発表を行う予定でございます。

Q.

事業者によって、当然強みや弱みなどがあると思います。病院開設までかかる期間や規模、診療科の多さなど、選考する上でポイントになる点があればお聞かせください。

A.市長

開業時期や診療科などを含めて、さまざまな提案をいただけていると思っております。その提案を拝見して、最終的には総合的な判断で選考委員会が候補者を決定する形になっております。病院の決定につきましては、私が選考するというよりは、専門的な知識を有する選考委員会の皆さんが選考する公募として行っておりますので、選考委員会の判断に委ねたいと思っております。

Q.

関心の高い話でありますので、事業者名を教えてもらうことは可能ですか。難しい場合は、理由を教えてください。

A.市長

通常、行政が実施するプロポーザルにおいては、契約候補者が決定した段階で、その決定した事業者のみを公表することが一般的でございます。最終的には一つの事業者しか選ばれませんので、公表することで選ばれなかった事業者に多大なご迷惑をおかけすることとも考えられます。今回、事業者より事前にいただいたお問い合わせでも、今回応募した事業者名は公表されるかの問いに対して、一切事業者名は公表しない旨を回答し、決定した事業者のみを 8 月 20 日に発表することとしておりますので、どうかご理解をいただければと思います。

Q.

選定委員会は、こういった立場の方が何人ぐらいで構成されるのか決まっていますか。

A.市長

選定委員会は、6 人を予定しておりまして、医療関係者・学識経験者・県の医療行政担当者・地域住民代表で計 6 人でございます。

Q.

県の医療行政担当者と言いますと、宮城県の病院関係の部署の方ですか。

A.市長

本市の場合、公立病院を持っておらず、公募要項を実施するにあたっては、県のご指導をいただいていたところでした。いわゆる医療行政について、やはり詳しい方ということで、県の医療行政を担当している方に依頼する方向で考えております。なお、具体的に誰にお願いするかということは、現時点で決まっておりません。

Q.

公平性とか客観性とかが担保できる設定ですか。

A.市長

もちろん公平性などはしっかりと確保できる方をお願いをしたいと思っております。なお、選定委員ですが、事前に公表しますと、過度な働きかけやさまざまな不都合が発生する可能性がありますので、8 月 20 日、候補者が決定した段階で、選定委員の皆さまの氏名を公表したいと考えております。

Q.

質問事項を今受け付けている段階で、まだ 2 つの事業者から質問は届いていないとの説明

がありましたが、富谷市としてどういう質問が来ることを想定していますか。やはり財政的な支援があるのかという質問が来ることも考えられますが、富谷市としてはどのように回答されますか。

A.市長

財政的な支援につきましては、やはり病院の建設には巨額のイニシャルコストが発生します。加えて病院の立ち上がりというのは、やはり厳しい状況も考えられますので、イニシャルコストとランニングコストの両面の支援を考えております。また病院用地の無償貸与や、泉中央駅からのシャトルバスは、公に表明をさせていただいている支援でございます。特にイニシャルコストにつきましては、国の補助事業の都市構造再編集中心支援事業を活用して、金額として上限が 21 億円のうち、14 億円までは補助金として出せるイニシャルコストの支援としてご説明できます。また宮城県にもご支援をいただけないかということでお話をさせていただいております。宮城県議会の常任委員会で、保健福祉部長が、過去に同様の事案で 20 億円程度、これまで支援してきたという発言がありましたので、同程度の支援をいただきたいという要望はさせていただいているところでございます。あと、ランニングコストにつきましては、いわゆる病床数や診療科目など新病院がどういった体制になるかによっても事情は変わってきますので、事業者と相談しながら折り合いをつけていきたいと思っております。

Q.

宮城県からの補助金がどうなるかは、新病院の概要や規模が出ないと示せないという理解でよろしいでしょうか。

A.市長

おっしゃる通り、そういった事情もあります。

Q.

事業者が複数の医療機関を持っている場合、富谷市から働きかけて、病床数を増やすようお願いするということもあり得ますか。

A.市長

物理的に限界もありますし、その事業者の判断であると考えております。どこかの医療機関の病床を購入して、増やすということも考えられるかもしれませんが、基本的にはその事業者が持っている医療機関の病床数、その範囲内であると思っております。

Q.

事業者を決めるにあたって 1 番重要視していることはどういった点ですか。

A.市長

富谷・黒川地域は救急・急性期を担う総合病院がないということで、救急搬送に県平均よりも多くの時間を要しており、搬送中に心肺停止になって亡くられる方がおられるという報告を聞いた際に申し訳ないという思いがありました。これは、本市のみならず、富谷・黒川地域 4 市町村の共通課題でもございましたので、やはりこの部分を最大限に充実していただきたいと思います。

Q.

先ほど選定委員 6 人のお話がありましたが、学識経験者と言いますと、こういったことに詳しい学識経験者の方を委員へということで考えていますか。

A.市長

医療行政や医療関連全般にわたって、学識を持たれている方をお願いしたいと思っています。

Q.

選定委員になられる方はまだ固まっていないということよろしいですか。また県内外を問わずに依頼するお考えですか。

A.市長

選定委員はこれから最終決定します。基本的に県内の方に依頼する予定でございます。

Q.

選定委員会が 6 人で構成されるということで、医療関係者、学識経験者、県の医療行政担当者、地域住民関係者で 6 人というのと、医療関係者 2 人、学識経験者 2 人、県の医療行政担当者 1 人、地域住民関係者 1 人といった配分でしょうか。

A.市長

医療関係者が 3 人で他が 1 人ずつという配分になります。

Q.

選定委員会の 6 人はいつ頃までに人選を固めたいというお考えですか。

A.市長

現在、打診と依頼を行っているところでございます。